

第3回開催 知事と語り合う市町村ミーティングinながい

- 開催日時 平成23年8月26日(火)午後1時30分～午後3時30分
- 開催場所 タス 2階 バンケットホール
- 参加者 約130名

<質疑項目>

- 1 循環型社会の構築について
- 2 伝統的な食品加工業の育成と人材の育成について
- 3 文化の振興について
- 4 観光の振興について
- 5 最上川と長井の文化財について
- 6 環境に優しい農業について
- 7 山形県の製造業の今後について
- 8 高校再編と長井工業高校の定員減について
- 9 山形県の産業人材の育成について
- 10 井上ひさし県民栄誉賞授与式でのお礼

【1 循環型社会の構築について】

★長井市は循環型社会の構築のために、全国に先駆けて家庭の生ごみを堆肥化し、その堆肥をもとにつくられた農作物を、また家庭の食卓に戻すという取り組みを平成9年からやってまいりました。

これは、協働のまちづくりの一環であるものと私は考えております。その結果、本来燃やしておりました生ごみの減少につながり、環境負荷の軽減につながったものと思います。

しかし、何より元々生ごみというものは燃やすものではなく、土から生まれてきたものは土にかえすという、ごく当たり前の自然の命の循環というもの。私たちが生きる上で、とても大切な基本であると考えております。

最近嬉しいことに、全国でも生ごみの堆肥化が注目されまして、国内外いろんなところでこういったシステムが構築されており大変嬉しいと思っているところでございますが、ここで知事さんにお伺いいたします。

今後ますます、地域ごとの循環型社会の構築や協働のまちづくりというものが大切になってくると存じますが、生ごみの堆肥化を循環型社会の実現に向けた施策のひとつとして県内全域で普及啓発や市町村へ支援して下さるお考えはありますか。

もし、おありでしたらぜひ、推進していただきたくお願いいたします。

(知事)

長井市のレインボープランは、本当に、素晴らしい取り組みだと思っております。

全国に先駆けて行われ、全国から見学に訪れているということはかなり前にお聞きしておりました。全国的にそういう方向に向いているのかなと思っております。

「もったいない」という言葉も方向的に同じでございますし、また山形県は、県民一人あたりのごみの排出量が非常に少ない県なんです。平成19年では全国1位です。21年は6位と聞いておりますけれども、上位にあります。

長井市が始められたレインボープランの影響もあり、県内に浸透していったのかなと思っております。

長井市以外でも堆肥化の施設を整備し、事業を実施している市町村というのは、鶴岡市、庄内町などがございます。それから、生ごみを堆肥化する装置への助成というものを、私が住んでいる山形市ほか19市町村で行っております。

行政でもそういった取り組みをしておりますし、県民がリサイクルと申しますか、循環型農業ということにも非常に興味を持っている時代かなと思っております。

3Rと申しまして、リデュース、リユース、リサイクルですが、例えば置賜農業高校においても、ワインの絞りかすで作った飼料をニワトリ等に与えております。

ブドウに入っている成分がとても良いようで、そういった取り組みをしております全国的な賞もいただきました。

おそらく根底には、長井市のレインボープランの取り組みが、影響しているのではないかと思っております。本当に先駆的な取り組みをしていただいていることに敬意を表しますし、これからもそれが広がっていけばいいなと思っております。

地域限定リサイクル推進モデル事業、簡単に言うと「ごみゼロモデル事業」というものもやっております。地域における循環型社会形成のきっかけづくりを支援しているところでございます。

農業面でも、製造された堆肥が農産物の生産に一層活用されるよう、環境保全型農業を推進してまいりたいと思っております。

現在、汚染稲わらの問題で、新聞をにぎわしております。これからいろいろ課題もあるのですが、これまで牛に付与する稲わらを、3割ほど本県は県外から入れてました。

その県外から入れてた稲わらが汚染されており、それを食べた牛から放射性物質が出たというようなことがありました。

これからは、県内の稲わらを限りなく100%に近づけるように努力して、県内で自給自足というような、そういったことも視野に入れながら、しっかりと、循環型の社会というものを目指していきたいと思っております。

【2 伝統的な食品加工業の育成と人材の育成について】

★山形県の酒造業界は、他県の同業者の方々の間でも有名なぐらいまとまりがありまして、技術的にもトップクラス。そういった意味で日本酒の産地、消費地として、今後ますます底辺拡大が期待できると思います。

しかしながら、酒造技術を伝承する環境や跡継ぎの育成など、課題もたくさんあります。例えば新潟県の大きな酒造メーカーですが、若い人を積極的に採用しているということも聞きましたし、実際、私も行って見て若い方がたくさん働いておりました。

これは、新潟県の大きなメーカーさんの話ですが、これから酒造業界をはじめとする、伝統的な食品加工業界、特に発酵系のしょうゆやみそなど、そういったところの人材の育成について、知事さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

（知事）

★お酒は、山形県が日本一だと思っております。秋田や新潟県がどうしても突出しているような感じを受けるんですが、通の方々は「山形のお酒が一番だよ」と言われるんです。

だから、少々宣伝が足りないのかなと思っておりますが、ただ、県内の酒蔵でその販売の仕方が非常に凝っていると思うのが、味はもちろんおいしいのですが、数少ない本数で提供する販売戦略で、本当に皆さんに喜ばれているんですよ。このようなやり方は若い人ならではの発想かなと思っております。

また、ある酒蔵さんで、ヨーロッパの品評会に出品して、1位になって「チャンピオン・サケ」などと言われました。

山形県のお酒はこのところずっと何年も、日本国内外で素晴らしい成績をとっており、山形県の誇りだと思います。

今お話にあったように、県内の酒蔵は本当はライバルなんですけど、皆さん仲がいいんですよ。県の工業技術センターのある技術者がコーディネートしているということも大きいと聞いております。なかなか得難い人材だと思っております。

また、日本酒というのが、日本のお料理に良く合うお酒だと思っておりますので、これからも技術開発を続けていき、次代を担う方々に古い良いものを残しながらも、新しいものをつくっていただくことが大事だと思っております。昨年出た発泡酒が、1本500円ぐらいで買えまして、飲んでみるとサイダーのように軽いんですが、日本酒なんです。山形県内からも、各酒蔵さんから非常にすっきりと飲める日本酒が出ていると思いますので、そういったものも宣伝したらいいんじゃないかと思うんですね。例えば、山形県内でちょっとした会合があったら、必ずその発泡酒で乾杯してからはじめようとか、業界でももっとおっしゃっていただいたらいいんじゃないかなと思います。県も業界と一緒に盛上げていくことで定着していくんだと思います。

お若い方々がいらっしゃるわけですから、一緒になって、日本酒をどうやってもっと盛り上げられるかということを考えていく、今日からはじまりなんですよ。

会ってこれで終わりというわけではなく、「心の通う県政」と私が標榜しておりますのは、お話を聞きし私が答える、そしてまたお話を聞きする、そういうやりとりをずっと続けることで、県の施策というものにつなげていき、皆さんが本当に必要な政策というものがお手元に届くようにする。そういう意味での「心の通う県政」というふうについております。

ですから今、お話いただいたことを基に、今後も県とやりとりをさせていただき、日本酒業界の発展や販路拡大などにつなげていきたいなと思っております。

人づくりということで今、お話をいただいたのですが、人づくりは本当に全ての基礎だと思っております。産業を支えるのもやはり人材育成だと思っております。全ての根本であり工業技術センターなどで研修や講習会を実施しておりますし、業界の若手技術者などで構成する、研究会活動に対する支援というものも充実させていきたいなと考えております。

これからも、若い方、女性の方などの新たな需要の開拓というものも、ぜひ一緒になってやっていただければと思っております。

【3 文化の振興について】

★長井市内で、子ども達みんなが幸せで、心豊かな子ども時代を送れる、過ごせることを願って活動させていただいております。なるべく助成などに頼らずに自分たちの力で運営し、子どもたちが育つ環境が文化、豊かな文化環境であることを目指して活動させていただいております。ただ、近年、会員が減少していることにも見られるように、子どもたちや、子どもを育てる若いお母さんが、生の文化に触れる機会がだいぶ少なくなってきたように感じられます。

それを受け、これからも機会をどんどん多く作らせていただきたいと思いますのですが、それについて、子どもの時から、多くの文化活動に触れる機会や、生涯学習という面からも周りの皆さんに理解していただくことが、ものすごく大切だなと思っておりますが、知事のお考えを聞かせていただきたいと思います。

また、子どもや大人が、大人も含めて多くの方々が、文化に触れられる機会を増やしていくための文化振興についてのお考えも、一緒にお聞かせいただければと思います。

（知事）

★音楽でも、演劇でも、いろいろな文化芸術というものに、小さいときから触れさせるという事は、とても大事な事だと思っております。

心の豊かさというものも、「おぎゃー」と生まれたときは皆、同じなんですけど、そのあとは大人や学校、地域社会など周りのいろいろな影響を受けながら成長をしていくんだと思いますので、豊かな心を育むという意味でも、子育てと一緒に文化振興をやっていくことがとても大事な事だと思っております。

今日も午前中、ある産業界の雑誌のインタビューがありまして、「山形をどう思いますか？」と聞かれまして、「私は誇りに思うことがいっぱいあります」と言いました。

県民の皆さんの勤勉で、実直な県民性ということが誇りでありますし、それから自然風土はもちろんです、文化的風土も同じです。山形交響楽団という地方の交響楽団、モンテディオ山形というプロスポーツチームもあります。パイオニアレッドウィングスもありますし、さまざまなスポーツや音楽などいろいろな組織があります。

藤沢周平先生という、庄内鶴岡出身の作家の先生もいらっしゃいますし、井上ひさし先生は置賜出身でいらっしゃいます。

例えば、子どもたちが、小さい頃から山形交響楽団の音楽を学校で聞くとか、そういった機会は大事だと思っておりますので、これからも続けていきたいと思っております。

それから、「山形ふるさと塾フェスティバル」というものもやっております。一昨年は鶴岡で実施しまして私も見てまいりました。

今年は、高島町で開催されますが、獅子踊りとか県内各地域の伝統芸能の後継者も少なくなっており、そこではお年を召した方々が、郷土のいろいろな文化を継いでもらうという形で小学生や中学生などに伝承しているんです。子どもたちが実に良くそれを吸収するんですよ。

そうしたものの発表会もあり、非常に素晴らしい踊りがたくさんございました。私はこんな素晴らしいものをもっと大々的に県民の皆さんに見て、知っていただきたいし、県外にも発信していきたいなと思っております。

どのようにしていけるか今考え中なんです。いずれにしても文化振興は本当に大事なので、これからもしっかりやっていきたいと思っております。

今日会場においでになっている、人間国宝の宇治先生は、長井のご出身でいらっしゃいます。この場をお借りして宇治先生、大変恐縮なんです。先生が人間国宝になられる、その道に入られたきっかけは、周りの方の影響があったんでしょうか？ そのことだけでも紹介いただければありがたいのですが。

(宇治紫文 氏)

一口ではちょっと申し上げられないと思いますが、最初から家庭環境において洋楽、邦楽の材料がたくさんありました。楽器や邦楽、洋楽のレコードがたくさんあり、父が東京へ行って帰ってきますと、レコードか絵本のお土産だったんです。

そのうちに、中田博之先生という人間国宝になられた方が疎開していらして、そこで第一流の先生の教育を受け、子どもだからといって甘えは全然なかったと思います。音に対して非常に厳しいお稽古でした。

そのうち先生が上京なさった後に、私がテレビで初めて耳にした音楽が「一中節」でした。その独特の流れ、楽器の音も少ない、語りというものにカルチャーショックを受け、それがきっかけでございました。何とかそれをお稽古させていただきたいと中田先生にお願いしましたところ「そういうものがその歳で良いと思ったか、それは嬉しい」とおっしゃってくださって、その場で六代目の家元に紹介していただいたということです。

お師匠さんを紹介していただきましたので、ものすごい厳しい修行をずっと続けさせて
いただいたということでございます。今日はこれだけでよろしゅうございますでしょうか。

(知事)

ありがとうございます。ご家庭でやはり邦楽器や謡曲といったレコードがあったとかです
ね、ご本もお土産にお父様が必ず買ってお帰りになったとか、そういう文化人を育てる環境
というのは、大事なのではないかと思っております。

文化振興に関しては、長井市にとっても大事だと思いますので、市長さん一言お願いしま
す。

(長井市長)

知事さんがおっしゃいましたように、やはり子どもの頃から本物の生の芸術や音楽、演劇
といったものに触れさせるということは非常に重要だと思っております。

今の時代、子どもたちも例えばいろんなゲームなど周りにあるわけで、保護者自身が子
どもたちに触れさせようっていう気持ちが薄くなってるのがかもしれませんね。

県のほうからもいろいろご指導いただきながら、市としても、さまざまな応援をさせて
いただきたいと思います。

宇治紫文先生のように人間国宝が私たちの町から出ているわけですから、本当に名誉な
ことで、知事さんからも山形県の名誉だというふうにおっしゃっていただき、本当にありが
たいことですので、先人や先輩方の今まで築いてこられた長井の文化や山形県の芸術文化
の振興をわれわれもがんばって、努力をしてまいりたいと思います。

【4 観光の振興について】

★これまで長井市を観光で訪れていただいた方々には、ご満足いただけますように、私な
りに微力ながら精一杯のおもてなしをさせていただいてまいりましたが、震災以降、観光客
の誘客を図るには、さらなる工夫が必要だと感じております。

例えば震災後、激減した海外からの観光客を呼び戻そうと、外務省と観光庁が人気グルー
プの嵐を起用して制作したプロモーションビデオがあるのですが、失礼ながら知事はご覧
になったことがおありでしょうか？

ございませんか、はい。すいません。ミーハーなプロモーションだったかもしれませんが、
5人のメンバーが北海道でジンギスカンや、京都で舞妓さんとすれ違ったりそれぞれのメ
ンバーが日本のいろんな観光地を訪れて「日本に来てください」とアピールする映像で、ア
メリカなどでも街角の大ビジョンで放映されたりして話題になったんですけど、その山
形版を作って、全国に発信したらいかがでしょうか。

吉村知事は映画の「小川の辺り」で、既に女優デビューを果たし、もう役者はお手のもの
と思われまますので、例えば知事が、田んぼのあぜ道でつや姫のおにぎりをほうばってくださ

たり、河原で米沢牛の芋煮を召し上がる映像は、とてもすてきだと思います。

なでしこジャパンの佐々木監督にもご出演いただいて、県内の酒蔵で日本酒を飲んでいただくなど、テレビで人気のあき竹城さんに、長井の黒獅子まつりにいらしていただいたり、山形に、この長井に来たくなるような、さまざまな映像を県内外はもちろん、国外にもどんどん流して、山形はおいしくて安心、安全ですよ、山形の、そして長井のすばらしさ、風景、笑顔をどんどんアピールしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

また、それに伴いまして、宿泊や飲食など、海外からのお客様に対して、おもてなしをする人々を対象に、簡単な外国語講座をしてはいかがでしょうか。

簡単なあいさつや会話だけでも外国からのお客様に喜んでいただいた経験もございました、海外からの観光客の誘客にもつながるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

(知事)

観光産業は、本当に大事だと思っております。素晴らしい景観があって、郷土芸能というような文化もあり、食べ物もおいしいと、全部そろっているのが山形県ですので、やはり宣伝がもう1つかなと思っております。

3月に大震災がありまして、広域複合災害だったんですが、いまだに原発事故が収束しておりません。一日も早く速やかな収束を皆さんと一緒に祈りするんですけども、その風評被害、本当に大きいんです。

先週、秋田の知事と一緒に台湾に行って観光のプロモーションしてまいりました。その際地元の航空会社を訪問して、前向きなお返事をいただいたほか、雑誌や旅行会社の方々にもたくさん来ていただいて、観光プロモーションをやった席で、質問をたくさん受けまして。内容は、「(山形県は)安全なんですか」、「隣の県でしょ」、「どうやって安全だって分かるんですか」というような質問をどんどん受けました。

私からは、「きちんと(放射能の状況を)測定しております」、「山形県というのは名前のおおりに、山があるんですよ。」地図をみただけでは山が見えないので、コンパスで計って、ここから100km、250kmとかね、そういうの見たら「(原発に)近いからダメじゃないか」と言われるんですね。ところが、「違います、ここに山があるんです。山に囲まれてるから山形県というんです」というふうに説明しました。非常に説明しやすい名前です。本当にこの山がこんなにありがたいと思ったことは今までなかったですね。

山があるから高速道路はつながらないし、山にぶつかって雪が降るから、雪国だからなかなか企業が来てくれなくて等いろんなことをこれまで思っていましたけれど、そうじゃない、山というのは本当に素晴らしいものなんだということを、台湾の方々にはお話してまいりました。

また、先日の日本海沿岸東北道の要望で、新潟の泉田知事と一緒に国土交通省に行きました。その際、立ち話で、泉田知事は最近、中国に行ったそうです。中国でもやはり聞かれたことが全部放射能のことで「大丈夫なんですか、安全ですか?」と。

やはり外国の方々は「日本はもう、危ないよ。特に東北はみな同じだ。危なくて行けない。」というような感じを持っているのではないかということ、私ども3人の知事は感じたわけですね。

ですが、私たち自身が外国に行って皆さんに「私たちは元気で暮らしてます」と。そして「放射能測定しており、大丈夫なんです」ということ言っていくことが、一番効果があるのではないかと考えています。

プラスして地方自治体だけがそれぞれ行ってどうのというよりも、国としてしっかりとピーアールしてもらい、風評被害を払拭することをやっていただかなくてはならないと思っております。

「私たちは安全なところできちんと安全なものを食べて、元気に暮らしていますよ」ということを申し上げていくのが良いのではないかと考えています。

被災県は本当に大変だったのですが、幸いなことにこの度は我が県は、直接的な被害は少なかったですから、応援県として、職員を派遣したり、現金を送ったり避難する方々を受け入れたり支援をさせていただいております。

8月11日現在で、山形県は10,890人の避難して来られた方を受け入れております。9割以上が福島県の方々ですが、現時点で受入数は日本で一番多いそうでございます。

少しでも安全なところでお過ごしただいて、帰れるときがきたら、隣ですからすぐ帰れるということですが、いらした方としても、見ず知らずの土地で暮らすわけですから、大変不安なんですよ。

ですから、「できるだけ皆さん、交流しましょう」とお話をしたり、イベント、お祭りなど何んでも交流してもっとお話をすることで、不安感というものが少しは減るんじゃないかなと思っておりますので、ぜひそうやって仲良くしていただきたいなと思っております。

ちょっと話がそれてしまいました。日本海側の魅力というものについて、秋田県知事と連携して、まず東北に日本海側に、山形に、実際に来てみてくださいよと。

その上でご覧になって確かめていただいて、今度は被災県のほうの内陸部も大丈夫ですからというようなことで、どんどん東北の観光の輪を広げていくということをやっているところでございます。

それから、映像でもっとピーアールをというお話でございました。つい最近ですね、東京に行きまして、羽田空港で停まっている飛行機にフィルムで嵐のメンバーの写真が貼り付けてありました。「飛行機に嵐の絵、なんで？」と思いましたが、今、お話をお聞きしてようやく分かりました。日本政府で宣伝してるわけですね。

嵐は、全国の子どもたちから人気がありますし、外国でもおそらく発信力があると思えますのでね。嵐は東山紀之さんと同じ事務所な訳ですが、映画「小川の辺り」の撮影の際2度ほど東山さんとお会いしましたが、東山さんがですね、嵐の番組につや姫のお米をお土産に持って行って、それをね、嵐のメンバーが「この米うまい」と表現していただきました。それが全国的に山形のうまい米があるんだってと、結構いろんな方が他の県に行ってね、山形の米

知ってたよ、ということになってるんです。

映像で紹介していただけるのは本当ありがたい。これ宣伝料、全然かけてないんですよ。「東山さんにつや姫おいしいからどうぞ」、って。そして食べていただいておいしいって。そして、嵐にお土産持ってった。それがテレビで放映された。それだけのことで、全国に知っていただけたということで、映像の力は大きいなと思っております。

山形県でも「やまがた発！ 旅の見聞録」という番組を、首都圏で放映しており、そこに私も何回か出演しております。今、おっしゃったように、田んぼのところでおにぎりを握って食べさせたり、稲刈りや田植えをしたりそういう内容が放映されております。

また、全国ネットの朝の番組でサクランボのピーアールなんかもやっております。あとは阿川佐和子さんに、つや姫の宣伝を今年の秋もしていただける予定でございます。

最後に、「海外からの観光客をおもてなしする方への外国語講座などは有効ではないか」というお話でございますが、全くそのとおりだと思います。

現在、置賜地区の方を対象に、韓国語バージョンですが、置賜地区23年度会話実践塾受講生の募集を7月22日から置賜総合支庁でもやっておりますので、置賜総合支庁からも取り組みを紹介してもらいたいと思います。

(置賜総合支庁 産業経済部長)

置賜で行われております、韓国語研修について説明をさせていただきますが、その前にせっかくの機会でございますので、置賜地域で取り組んでおります観光についてご紹介をさせていただきますと思います。

今回の震災では、観光事業者の方々が大変ご苦労されたと思います。観光客の客足が全く途絶えてしまい、観光客の動きがなくなってしまった、というような状態が続いておりました。

状況は回復傾向にあるとはいえ、まだ観光客の動きというのは厳しい状況にあると思います。特に東京方面からの団体客の皆さまが、なかなかこちらまで客足が伸びないということで、原発の影響、それに対する不安感といったものが足を遠のかせているんだろうなと思っております。

先ほどの知事の話にもありましたように、「地域全体が輝いてなければ、元気でなければ、お客様はいらっしやらない」というわけでございまして、われわれもその輝くお手伝いをさせていただきますいなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、ここ長井も、米沢牛の産地であり今回の稲わら問題や風評的な影響というものがないだろうかと心配をしております。

米沢牛はもはや、農畜産物ということだけではなく、置賜地方にとっては重要な観光資源のひとつでもありますので、積極的な観光ピーアールをやっていかなければならないと考えております。

そこで、9月から11月の間、米沢牛をテーマとした観光キャンペーンを実施する予定で、

内容の一端をご紹介しますと、長井市でも10月1日に「長井市1,000人いも煮会」が開催されます。川西町でも「黒べこまつり」や「米沢ぎゅう牛まつり」など牛肉をテーマとしたイベントが開催されますので、こういったものをご紹介します、大いに観光客の方に来てもらいたいと思っております。

それから、牛肉の消費という部分に関して、特に贈答用のものが贈り控えされているという声も聞きますので、ぜひ皆さんにはこういったときこそ、自信を持って全頭検査して安全性の確認されている、知事の証明書がついてる牛肉を贈ってもらいたいということで、「米沢牛肉をおくって！ もらって！ キャンペーン」。つまり、贈った方にも、もらった方にもプレゼントがあたるキャンペーンなども展開しております。

冬は、「山形おきたま 冬のあつた回廊」。これは食をテーマとしたキャンペーン、春は「おきたま花回廊」、夏は、「夏はおきたま！ 『山形おきたま 夏は田舎に回廊』」というような、福島や原発問題で、なかなか外に出て遊ばせられないという親御さんのお声などもお聞きし、ぜひこちらに来てプールや、川などに入って遊んでいただけるような、そんなキャンペーンを展開しております。皆さまもご協力をいただきたいと思います。

それから海外の皆さまからお越しいただくという点でのお話でございますが、置賜管内も昨年1年間で約1,000人ぐらい海外からのお客様がみえられました。知事がプロモーションに行かれた台湾からが一番多いのですが、スノーモービル体験など雪遊びや体験をしたいということで見えられています。

大切なことは、地元いらっしやったときに、地元の方々とのコミュニケーション、ふれあいというものだと思います。

つたない言葉だけでも、「よくいらっしやいました」というような言葉をもらっただけで、観光客は喜ぶというものだと思いますので、そんな趣旨で観光業者の方と一緒にしまして、今年は韓国語講座を置賜総合支庁の会議室で実施しております。

特に観光事業者の方だけに限定しているわけではございません。一般の方でも受講は可能ですので、この機会に韓国語を覚えてみたいという方は大いに結構でございますので、ご参加いただければと思います。詳しくは私どもの観光振興室にお問い合わせいただきたいと思います。

【5 最上川と長井の文化財について】

★1つは旧西置賜郡役所、今は小桜館とっていますが、この旧西置賜郡役所を県の文化財指定にしていきたい。

私どもは将来的には国の重要文化財になればいいなと思っておりますが、この西置賜郡役所は、明治11年に建てられまして、県内で郡役所が12くらい建てられたわけですが、その中で一番古い郡役所です。

現在、日本に残っている郡役所では2番目に古いということで、歴史的にも建築学的にも大変価値のある建物ではないかと思っておりますので、これから市において県指定のお願いにい

った際には、よろしくお取りはからい願います。

旧郡役所は、西置賜の行政の中心が長井であったことを示す、非常にシンボリックな建物だろうと思います。郡役所があったからこそ、いろんな役所が長井に集まり長井が行政の町として栄えたということでもありますので、その点をお願いしたいと思います。

2番目は、最上川の文化的景観でございます。長井にはご承知のように最上川舟運で栄えた町で、舟場、船着き場などもあり、米沢藩の米がこの長井の舟場から酒田のほうに行き、上方のほうまで運ばれていったということがあります。

帰りには上方の物資がくるし、上方の文化も長井に伝わったということなものですから、これを長井の財産として、観光面などにも活かしながら、町づくりを進めていかなければならないと思っていますところでは。

市長さんもそういう考えだろうと思いますが、町中に舟運で栄えた豪商の商店街があら町や十日町に残っているので、そういうところの景観づくりなどハード面や、あるいは舟運をしのぶソフト面の事業など県の事業がありましたら、ご援助をお願いしたいということでございます。

(知事)

第1点目の旧西置賜郡役所についてですが、私は、今まで見たことなかったもので、今日、長井に入ってすぐに見てまいりました。なかなか素敵な建物だなと思いました。

明治11年にできたということで、資料に目を通したときに、寒河江にある西村山郡の郡役所と、ここ長井にある西置賜郡役所、この2つが明治11年にできて、県では一番古いですね。寒河江のものは、既に県の指定になっております。

鶴岡の西田川郡役所は、既に国指定になっております。東村山、西村山、東田川が県指定になっております。本当に素晴らしい建物ですし、最も古いということ、そして歴史や文化を象徴する建物だということで、まずは指定文化財に県が指定するためには、文化財保護審議会というところで、議論してもらわなければならないという手順があります。

この審議会で旧西置賜郡役所が指定候補として今後、議論される予定と聞いておりますので、見守っていきたいと思っております。

それから2点目の最上川と長井の文化財ということでございますが、お話にもありましたように、米沢藩の米が長井から上方へ運ばれたということでありますので、舟運文化の大事な拠点だったのだと思っております。

現在、長井市のかわまちづくりということで、平成22年の3月に、さまざまな支援をすることを決定しておりまして、県と市それぞれの取り組みを展開しております。

県といたしましては、桐町成田線の整備を平成22年度に着手して進捗をはかっているところでございます。長井市が行う、都市再生整備計画が、来年度、新規事業として国に採択されるように、助言を行っておりまして、引き続きハード、ソフトの両面で支援を行っていきたいと思っております。

県指定文化財になっている丸大扇屋さんも見せていただきました。素晴らしい町並みが残っており、ぜひ次の世代に引き継いで100年後の長井市の町並みというようなことを念頭におきながら、やっていくのがいいのではないかと思っており、古いものをいかにして残すかということが大事だと思います。

人は、古里が懐かしいというか、惹かれて観光客がやって来る。日本国内もそうだし、外国人も、日本全国どこも同じ町だったら来ないんですよ。

その町らしさというものが残っていると、魅力だと思いますので、ぜひ長井らしさというものを念頭におきながら、町づくりを進めていただければと思っております。

最上川の重要文化的景観の選定を目指して、今後も、長井市と一緒にやってまいります。国と連携して今年度から長井市が実施する調査への支援を行っているところです。

重要文化的景観に選定されますと、案内板の設置や重要な建物などの修繕といった、ハード面の整備についても支援の対象になると聞いております。そうなった際は、先ほどお話があった韓国や中国など海外のお客さんにも分かるように、日本語、韓国語、中国語、英語はもちろんですが、そうやって県内外、国内外からのお客様に対応できるような観光地の整備というものが大事なのではないかと思っております。

皆さんと一緒に、長井の宝というものを守り、活かしていくということが大事だと思います。これは長井市の取り組みがとても大事だと思いますので、市長さん、どうぞよろしく申し上げます。

(長井市長)

知事からは、県の指定文化財として、見守っていくというふうにおっしゃっていただき、何とか大丈夫なのかなと思っておりますが、かなり建物等も傷んでおりますので、その部分につきましては、現在、都市再生整備計画というものを立案しておりますので、その中でお話のあった舟場のところを、普通の道の駅ではなく、川の駅ということで、川と町が一体になった、物産販売や食事ができる場所、川遊びができる場所など、そういったものを来年からの都市再生整備計画を承認いただいて、次の社会資本整備事業で実施してみたいと思っておりますし、あら町や十日町、大町、高野町というのは、本町や駅前通りと違って、街路事業は実施せず、そのままの現在の町並みを活かしながら、電柱の地下埋設など最低でも民地に移していただいて、石畳みたいなものになると、車はスピードが出せませんので、安心して歩いて買い物や散歩いただき、観光客にも楽しんでいただけるような、景観づくりもこの計画の中で立てながら、考えていきたいと思っております。

当然、文教の杜については、小桜館だけではなく、交流文化展示施設のようなものもぜひ、作っていただければと思っておりますので、ぜひ県からもご指導やご支援をいただきながらがんばっていきたく思いますので、よろしくお力添えお願いいたします。

【6 環境に優しい農業について】

★知事におかれては、就任当初から農業に力を入れていただき、力強いなあと思ってるところです。また、今回の牛肉の放射能問題に関しましては、全国に先駆けて一早く全頭検査を実施していただき、徐々に回復の道をたどってるということであり、米沢牛の生産者の一人として感謝申し上げたいと思います。

今日は環境にやさしい農業ということで、ひとつお願いがありまして、話をさせていただきます。

全県エコエリア構想の実現のためには、環境保全技術の確立と(取組)面積の拡大が必要だと思えます。平成23年度から環境保全型農業直接支援対策が始まり、大変すばらしい考え方であり取り組もうかと動いてきたが、数点ある項目は雪国山形県では中々難しい面があります。

そんな中で「その他」というところがあり、「皆さんからこういうことをやったら環境にやさしい農業が出来るというものがあれば、どんどん出してください」と言われ、事務方を通じて何点かあげている。

その中の一つが、田んぼの稲わら、今回の放射能の関係で稲わらが問題となっているが、稲わらを収集することへの支援ということでお願いしたいと思っている。過去にもあった稲わら収集への支援のような、ただ単に稲わらを収集するからお金をあげますよというのではなく、今回の制度のすばらしいところは、エコファーマーが特別栽培技術で行なったものというのが土台にあって、この稲わら収集することによってのメリットは計り知れないものがあると思っています。

①ひとつが安全な稲わらを収集できること、②それによって安心、安全な牛肉の生産ができること、③堆肥をかえす場合その堆肥も安心であること、④稲わらをすき込むのではなく収集することによりメタンガスなどの温室効果ガスの削減に効果的であること、一粒で4つおいしいメリットがあると思っています。

もう1つは、長井は、近隣でも転作の大豆の生産では組織的に一生懸命やっているところですが、例えば、局所施肥技術などを取り入れて工程を省くことにより油、燃料の削減というものを行った場合にも対象とできるよう考えていただきたいということです。

いずれも県の事業ではなく国の事業でありますので、ここで知事さんより「それでOKですよ」とはならないのはわかっておりますので、これからも事務方を通じて様々なアイデアを出していきますので、力強い後押しをお願いしたいと思います。

(知事)

米沢牛は全国的に名前を知られている、本県の大事なブランドでございますので、しっかり守っていきたく思っております。全頭検査の件では、今、お褒めいただいたのですが、とにかくどうやったらいいのかと考えたときに、まず消費者の皆さんの信頼を取り戻すのが一番だろうと。それが信頼の回復、生産農家にも急がば回れで、結局が一番の近道になるの

かなと思ひ決断をさせていただき、それが結果的に全国で一番早かったということで、大変喜ばれているところでございます。

それだけでは足りないと思ひ、先日、東京で、「がんばろう『山形県産牛』元気キャンペーン」やってきました。約350人集まっていたいただきました。山形県の東京事務所もがんばりましたが、山形県の熱意や愛情を持っている県人会とその組織が本当ありがたいんですよ。山形県人東京連合会というのがありまして、その方々は本当にたくさん来ていただきました。また、山形県ゆかりのいろんな方々にもお越しいたいただき本当に盛況でした。

今度「大阪にも来てくれ」と言われておりまして、「9月は休みがなくなるな」と思ひながら、大阪にも行くことにしています。

実は、山形牛は関西にも結構行っておりまして、風評被害を払拭するために、販路、消費復活のみならず、販路拡大につなげようという、プラス思考で考えるものですから、現在は危機なのだけれども、チャンスととらえて、販路拡大にがんばりたいと思ひているところでございます。

関連で稲わらのお話がありましたが、稲わらは、いろいろなものに使えるんですよ。昔は本当に縄をなったり、はけぼうなどいろんなものをつくったり、さまざま利用していました。

ところが今は、ざくざく切って田に鋤込む、というように、それはそれで栄養になるのかもしれませんが、そうではなく、県外から稲わらを買っているという現実があるわけです。なぜ県内の稲わらを使わないの？と思ひておりまして、稲わらを、もっと自給自足して、畜産にしっかり使っていけるのではないかと、現在、農林水産部において検討をはじめたところです。今までは、コストが安いからということで、県外産稲わらが3割入っているという部分を、県内産に実現できなかったという実態があります。

ただ、今回のことを契機としまして、実効性のあることとみんなが認識しはじめたので、いいチャンスかなと思ひています。

横道にそれますが、実は、全頭検査をはじめたのは7月25日です。記者会見で発表すると同時に実施しました。実はその前の週の7月20日に、稲わらのことなどいろんなことを政府に緊急提言に行きました。

また、米沢牛を使ってくれているお店に入ってどのような状況かなと思ひ食事をしました。お店の方に、「風評被害はありますか？」と聞きましたら、「少しはあります」という話でした。2、3割お客さん減という話も聞きました。それで、米沢牛を使ってくれてありがとうということを申し上げて「稲わらはどうでしたか？」と聞きましたら、「農家の方から聞いたところアメリカから輸入している稲わらを食べさせてるそうだから大丈夫だそうです」と聞いて、複雑な気持ちになりました。

県内の稲わらをしっかりと有効活用できる方向にもってくべきだと思ひておりますので、今日のご意見も頂戴しましたので、今後検討させていただきます。ありがとうございます。

2つ目の局所施肥ということでございますが、雪国であります本県の実情というのが本

当に、中央で分かっているのかなあ、と思うんです。いろいろ分かってないじゃないかと思うようなこともあり、現場から声をあげていかなければならないと思っております、現場からの声をしっかりと国へ申し上げていきたいと思っております。そのことについて、置賜総合支庁から補足してください。

（置賜総合支庁 産業経済部長）

生産現場に一番近い県の機関といたしまして、できるだけ生産者の声を聞くように努めておりまして、今回も国が実施いたしました環境保全型農業直接支援対策に関しましても、どのようなものなのか、意見をお伺いしておりました。

市町村等との意見交換などでは、「本当に実態に即した国の制度なのだろうか」、「なかなか本県での取り組みは難しいのではないか」、「国に対して、雪国の実態を考えてくれるよう、もう少し制度の方向性を変えてもらうべきではないか」というようなご意見を頂戴いたしまして、さっそく県の農林水産部につなぎました。

農林水産部でも各総合支庁から、いろいろな意見を集約し、知事へお伝えし、知事から、さっそく7月に国へ政策提案という形で、制度の改正も含めて要望をしていただいたところです。それがこれまでの経過でございます。

その後の経過がどうなってるかというところ、緑肥鋤込み、稲わらの堆肥施肥、それから局所施肥の取り組みについては、農林水産省で「環境保全型農業モニター調査」を実施して、検証しているところです。

この調査は、6月から9月にかけて実施しまして、調査の結果をとりまとめて検証し、12月以降に国の来年度の制度設計に向けて、総合的な判断を行うと聞いております。いろいろな機会をとらえまして、今後とも国に対し要望してまいりたいと思っております。

【7 山形県の製造業の今後について】

【8 高校再編と長井工業高校の定員減について】

【9 山形県の産業人材の育成について】

★私から、製造業の立場から3点ほどご質問と、お願いをさせていただきたいと思っております。

まず、1つ目が山形県の製造業の今後についてということです。先の大震災のあと、県内の製造業は、直接的な被害はそれほどなく、うちの会社もそんなに被害はなかったのですが、太平洋側の3県は大きな被害があり東北の製造業というものが、今後どうなってしまうのか非常に心配しているところであります。被災地のほうから山形県内に企業移転という話も、あったとしても一時的なものかなと思っております。

それから企業の誘致という部分に関しても、今回の震災や原発の影響、超円高の状態により、物づくりの拠点が海外にシフトしていく中、東北、山形県への企業の誘致という部分では、なかなか大変ではないのかなと感じています。

むしろ企業の誘致ではなく、仕事の誘致というものを行なっていくような流れになるの

かなと考えております。

このような中で、山形県の製造業というものが、今後どのように変わっていくのか、県としてどのように考えているのかなという1つです。

★2番目が高校再編の問題であります。地元には長井工業高校というものがあるのですが、定員が削減されて1クラス減るといような話を伺っております。

山形県の工業高校の普通高校に対する割合は、全国で2番目に多いんだそうです。簡単に言うと、県内にいる普通高校生と工業生の割合ですね。それがもう山形県は全国で2番目に工業高校の生徒が多いことになります。

私の会社においても社員のだいたい半分以上が長井工業のOBということで、実際そのほかの長井の地域製造業いっぱいあります。その中でたくさんの長井工業のOBの方が製造業、物づくりの現場で仕事をしております。

私は長井工業のOBではないんですけども、その私から見ても地元で工業高校というか実業高校ですね、地域に必要とされるのだと私は考えております。

私は、定員が減少するというのは反対だなと考えております。実際、子どもの人口は減少しておりますし、高校再編の問題に関してはさまざまな市町村、それぞれみんな違う立場でお話はされていると思いますけれども、長井の場合は製造業の多いところであり、長井市としては工業高校は必要だと感じてるところであります。

先ほど企業の誘致ではなく仕事の誘致というふうなことでお話をさせていただいたんですが、そうであればなおさら地域の製造業を支える人材育成っていうものは重要であると思います。

その基礎、基盤として工業高校というのは、なおさら必要なものではないかと考えております。その部分について、吉村知事に聞きたいのが2番目です。

★3番目として、山形県の人材育成、産業人材の育成という部分で、先ほどお話したとおり「物づくり」というものが海外のほうに流れています。そして少子化で若者がだんだん少なくなっていくと思います。

そんな中で製造業にとって優秀な人材の確保、それから育成っていうのは重要なことだと思います。私自身、会社を経営する立場で若者にとって魅力的な「入りたいな、ここで仕事したいな」といような会社づくりをしていくことは、必要だと感じておるのですが、県においても製造業における人材育成について、どのようにお考えなのかなということが、3つめの質問になります。

それから最後に、吉村知事はどちらかという、つや姫のイメージありまして、農業や観光に力を入れていらっしゃるという感じを個人的に思っております。

長井の地は、製造業がとて多く2代目、3代目でがんばっている人がたくさんいますので、ぜひ製造業のほうもよろしく願います。

(知事)

そうなんですよね、つや姫の母と私は言って、昨日も、つや姫サミットというのがあったんですよ。山形県が10年かけて開発したお米、つや姫をなんとしても日本を代表するブランドに育てたいという思いがあるのは確かです。

全国23道府県から昨日集まっていたき、つや姫サミットというのを開催しました。そんなことで非常にマスコミも取り上げてくれておりまして、それから観光、台湾に行って、観光のプロモーションを行ったりとか、そういうことで目立つのかなとは思っておりますけれども。山形県は本当に物づくりの県だと思っております。

私は、農林水産業は山形県の基盤産業だと言っているんです。やはりそれがなければ生きていけないくらいの基盤。基幹産業というのは製造品、出荷額については、工業製品が本当に多いので、それは基幹産業と言葉では使い分けております。どちらも大事な産業だと思っております。

観光産業はもう、全部に影響してくるんですよ。農林水産物を観光に来た人がたくさん買っていつてくれる。リピーターとしても買ってくれる場合もありますし、旅館、飲食店様々なところに影響する、大きな、大きな総合産業的なものなんですよ。山形にとっても大事だと思っております。

まず1つずついきます。1つ目の製造業の今後というのは、これは今、危機的な状況だという認識をもっております。大震災を経験して分かったことは日本海側が、いかに太平洋側に頼っていたか、特に本県の場合、太平洋側の隣県に頼っていたか、ということでありまして。

直接的な被害はなかったのですが、2次的な被害、間接的な被害は本当に多かったということを知っております。例えば印刷で使用する紙が、太平洋側の製紙会社に偏っており、地震の影響で紙が入ってこないというようなこともありましたし、本県の石油燃料の8割が太平洋側の港から入ってきていたために、被災したことで入ってこなくなり、復旧するまで大変でした。そして高速道路も細切れ状態でありましたので、救援物資を運ぶにしても、なかなか思うように進まずということもありました。さまざまなことがあり、そこをなんとかしなくてはならないということがあります。

企業のリスク分散ということは、とても大事だと思っており、企業もそのことは分かっているんですね。だから太平洋側があのようになって、内陸のほうにリスク分散したいと考えるところもあって、本県にもいくつかそういう動きがあると聞いております。

ただ、それ以上に、東北の外に行ってしまうということがあるんですよ。

今日の午前中に、ある業界紙のインタビューがありまして、その情報ですが、埼玉には東北のほうから、もう30もの会社が引っ越してしまっただと。

それから西日本のほうの県にも、ある県に16個、ある県に8個と。九州のほうの県に8個とかですね、もう向こうのほうに行ってしまうという情報があります。

それで「東北どう思いますか？」と問われて、私は、東北の同じ仲間の県として、やはり被災地県が復旧、復興するのすごく大事なんですよ。隣県として手伝わなければならない、応

援したいですよ。

その財産を持ってくるなんてことは、なかなかしにくいわけなんです。本県だけでなく秋田ももちろんそうなんです。

しかし、関東、関西、九州が、どんどんいろいろなことやっているということをお聞きしますと、それではいけないとももちろん思います。やはり東北の1つの県として東北を守りたいという気持ちがあります。

東北、隣の県と山形県というような関係だけではなく、東北で守りたいと思ったときに、より安全な山形県、秋田県にリスク分散して工場を移転してくださいと、しっかりと行っていくべきだろうと思います。

将来の東北を守るためには、これは言っていかなければならないと思っています。非常に矛盾することではあるのですが、将来の東北と考えた場合に、県は言いづらくても発していかなければならないだろうと思いますし、市町村もしっかりと企業誘致を東北の間であれば東北を守るんだ、東北にいてもらってこそ東北の将来が、雇用もあって、若者が住むところもあって栄えていくんだということがあるわけですから、今、隣の県として申し訳ないという気持ちもあるけど、つらい立場ではあるというのが本当のところですよ。

大きい視点で、東北全体を守るためということで、これからやっていきたいと思っております。答えになったかどうか分かりませんが。

また、円高というものは、東北だけの問題ではございません。電力不足に加えて円高。特に円高は歴史はじまって以来の円高となっていますから、海外に生産拠点を移すということが加速しております。

円高をなんとかするというのと、国内に生産拠点をとどめるという、2つの方向で国が国策としてやっていくべきではないかと。これはもう自治体レベルの問題ではないのではないかと考えています。

ただ、東北に生きている企業に対しては、東北の将来を考えて、しっかりとそのサポートをしていく体制を整えていくということです。

それから山形県は、今回のことをみてもわかるように、東北地方でも他の県と比べて、非常に地震の頻度が少ない安全な県だと言えるところです。

また、本県は、住むにはとても住みやすいところです。しかし雪は克服しなければならぬ。

雪対策の企業誘致、そのための補助金や支援などを考えながら、食べ物もおいしいし、県民性も非常に勤勉で、心温かい人たちが住んでいるというようなこともしっかりとお伝えし、また工業高校の普通高校に対する比率が全国2位、それは全くその通りです。

私も教育委員だったので分かってるのですが、物づくりができる若者をどんどん育成している県だということも含めて、さまざまな本県の強みというものを発信しながら、首都圏からの企業誘致をこれからも粘り強く続けていきたいと思っております。大変厳しい状況ではありますが、やっていきたいと思っております。

2点目の長井工業高校の定員減というお話であります。西置賜地区の高校再編整備計画を策定するにあたりましては、県の教育委員会で検討委員会というものを開催したり、生徒や保護者の方にアンケート調査を実施して、丁寧にご意見を伺って、そのようなことを考えたと聞いております。

独立行政委員会なものですから、やはり教育委員会がそのようにして進めてきていることを、やはり尊重する必要があるだろうと思っております。

工業高校というのは本当に大事なところでありますし、長井の物づくり人材、また時代を支えるということは大事なんですが、ただ本当にもう（質問者が）答えをおっしゃっているのですが、少子化が著しいというのはもう目に見えておりまして、一番大きい原因なんです。

そこが大変残念ではありますが、少子化が著しく進行している現状ということも考えて、そのようにしているのだと承知をしております。これは教育委員会の所管ですので、置賜教育事務所から説明してもらおうと思っております。

（置賜教育事務所長）

今、ご質問いただきました、長井工業の学科の減ということでございますが、先ほどお話しされましたけれども、少子化に伴いまして、学科、クラス、学級数を減少せざるを得ないという状況が、県全体として大きな課題でございます。

西置賜地区だけを見ますと、平成16年から10年間、平成26年まで約200名の中学生が減少になると。一方、東南置賜では500名、中学生が、卒業生が減っていくと。そういう中で、教育の質と活性化をどうやって維持していくかという大変大きな問題がございます。

そういったことで、置賜はもとより、県内各地で再編統合の計画が立てられてきたというふうなことでございます。

長井工業は、例えば生徒さんが駅舎をつくることや、マイコンをすること、長年にわたってボランティアをされることなど、地域の産業界から多大な支援を受けて、有為な人材を数多くだして、産業界を支えてきたという、地域密着型の教育を進めてこられたということは県教育委員会としても十分把握しながら、なんとか子どもたちの減少に見合った教育を維持するというので、学級減という計画を出させていただいたということでございます。

なんとかこの点をご理解を賜りたいと思っております。以上でございます。

（知事）

3点目ですが、製造業の人材育成ということでございます。

産業というのは本当に大事で、私は雇用、県民生活の安定というものを考えるために雇用が大事という点で、雇用に力を入れてきましたが、雇用と表裏一体となるのが、産業振興です。県内の産業振興は、農林水産業だけでなく、もちろん製造業をはじめとした工業は大事

なものと重々承知をしております。

従来、山形県は製造業に力を入れてきて、農業に力を入れないということが続いてきて、農業がものすごく衰退してしまったときに、これではいけないのではないかとって立候補して就任したものですから、農林水産業の再生ということで、そういう意味では農業ばかりやってる知事かと思われるかもしれない。

そうではなく、もちろん産業振興もしっかりやっていきたいと思っておりますので、そのことは知っていただきたいなと思っておりますのでございます。

雇用の人口は本当に製造業が本当に多いんですね。本県の強みをいかした技術力のある製造業といいますか、産業をできるだけ本県にきていただき、長くいていただく。事業を拡張していただくということを、考えていきたいと思っております。

物づくり産業を支える人材確保、これは本当に全ての産業の基盤が、人材だということであり、県では現在、産、学、官が連携して、産業人材育成を進めるための指針「山形県次世代ものづくり人材育成プログラム」というものを昨年2月につくりました。

小学生から社会人にいたるまでの、個人のライフステージに応じた人材育成の取り組みを進めておまして、産業技術短期大学校で優秀な人材の育成をはじめております。

また、汎用性の高い技術の獲得、国際感覚の醸成など戦略的な物づくりに対応した研修なども実施しているところでございます。きわめて重要な課題が人材育成でございますので、引き続きさまざまな取り組みを進めていきたいと考えております。

(長井市長)

ちょっとだけいいですか。時間もないので手短かに申し上げますが、知事は農業とかあるいは観光に力を入れてる部分が見えてるのであって、実は工業振興のほうもかなりがんばっていただけてます。平成21年、名古屋のインダストリアルセミナー、いわゆる東海地方と首都圏で自動車産業の企業誘致や受注拡大のために、毎年なさっていただけてます。また、名古屋に一昨年行ったときに、知事が企業の役員の方を中心とした200名ぐらいの方々にレクチャーをされまして、非常にわかりやすく評判がよかったんです。山形県が人材をはじめ物づくりに適した地域であるとレクチャーしていただきました。

実は工業振興にも力を入れていただいているのですが、テレビなどではどちらかという目立つのがつや姫とか観光なものですから、決してそうじゃないということをお分かっていただければと思います。

それから、長井は小さい街なんですけど、電子、機械、金属加工を中心に製造業が250社あるんです。だいたい半分ぐらいの会社が、自動車関連の企業です。

山形県が目玉された部分が3つありました。

それはまず山形空港です。仙台空港がほとんどだめになったんで、山形空港と花巻空港が大活躍しました。港は酒田港。

あと長井市に関連しては、国道113号です。新潟と仙台を結ぶ大動脈だったということをお、

改めて認識をしてもらいました。

置賜は物づくりの町です。米沢の工業団地も分譲するところがもうないんです。南陽もない。長井はもともと工業団地はないんですが、指定しているところは農地のため、とっさには対応できないんです。

来年の重要事業には、ぜひ県にお願いしたいと思ってるんですが、置賜に県の工業団地というものがありません。酒田と最上、新庄とあと東根に2つあります。小規模でもいいので、西置賜に例えば、川西と飯豊と南陽と長井の境あたり、置賜病院のあたりですね、できれば長井寄り側がいいですね、工業団地を設置いただきたい。置賜にも例えば日本海側の、山形県としての補完機能での一部として、ぜひこの際ご検討いただければと思います。来年度からお願いしてまいりたいと思います。

（知事）

市長からはエールと要望と両方ももらいました。市町村ミーティングで市長から要望をいただいたのははじめてかなと。それだけ市政に熱心なのかなと思っております。ありがとうございます。

長井は本当にさまざまな優秀な製造業を持っているということは、私も存じ上げております。市長がエールしてくれたからではないけれど、山形県は工業がんばっています。企業立地もですね、昨年どうかな、東北で第2位だったかな。そういうデータもあるんですね。

ただ、どうしても農業と観光だけ目立っちゃって。工業やってないんじゃないかと言われると、やっていますので、今度は、しっかりとその辺をだしていこうかなと思っております。しっかりと産業振興がんばらせていただきますのでよろしく願いいたします。一緒にがんばりましょう。

【 10 井上ひさし県民栄誉賞授与式でのお礼】

★質問ではございませんが、私から一言ごあいさつ申し上げます。昨年の8月15日、井上ひさし県民栄誉賞授与式に私も参加いたしまして、偶然にも知事の隣にいわせたましました。

あのときは暗くて、お互い顔も見えませんでした。今日はお伺いしました。長井にきましてもう半世紀以上経ちますが、出身地は川西町小松駅前通りのひさしさんとは、近所同士で幼なじみでした。

学年も1年しか変わらず、とても仲良くて駅前通りで小さいとき撮った、仲間たちの写真も何度か新聞に掲載されております。

そして、うんと遊んだ仲間で、よもやあのような大作家になろうとは夢にも思っていませんでしたが、彼が中学2年の時、突然一家が姿を消しまして、町中大騒動になったことがあります。

それから何十年と経ちまして「ひょっこりひょうたん島」の原作者としてテレビに写った時も、また町内が大騒ぎになりまして、もう大喜びしたことがあります。今や押しも押され

もしない第一人者になって、今後もますます活動してくれるものと思っておりましたから、訃報に接しまして残念で、残念でなりません。

また知事様のお話も、とても一言、一言が心にしみこんで思わず涙があふれました。さぞや、ひさしさんも天国で喜んでいることと思いますので、この場をお借りしてお礼の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

最後に、市長さんです。長井でもぜひ、ひさしさんにも勝るとも劣らない人材をぜひ、育てていただきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(知事)

どうもありがとうございます。井上ひさし先生は本当に山形県の誇りだと思います。吉村家の先祖が川西町だからというわけでもなく、全国的に本当に井上先生のファンは多いと思います。

山形県の誇るべき作家、井上ひさしさんを思い、これからも大事にしていきたいと思っております。これからもずっと子ども時代のことや井上先生の思い出を語り継いでいただきたいと思います。

以 上